

Effect of cerumen removal among institutionalized elderly individuals: hearing and the relationship between earwax type and accumulation

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Suehiro, Rie メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/28529

博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2180号

学籍番号 0827022011

氏名 末広 理恵

論文審査員

主査（職名）（教授）泉キヨ子

副査（職名）（教授）塚崎 恵子

副査（職名）（教授）稻垣美智子

論文題名

Effect of cerumen removal among institutionalized elderly individuals: hearing and the relationship between earwax type and accumulation

（施設高齢者における耳垢除去の効果－聴力および耳垢の性状と蓄積との関係－）

論文内容の要旨

本研究の目的は、要介護高齢者の耳垢除去の効果を検証するため、12週間の耳垢除去の介入を行い、耳垢除去による聴力変化および耳垢の性状と蓄積経過との関係を明らかにすることである。対象は施設入所で認知症のない要介護高齢者 10 名 19 耳である。方法は耳垢除去基準を作成し、介入した。耳垢蓄積は耳垢による外耳道の閉鎖の程度により‘完全閉鎖’、‘1/2閉鎖’、‘1/3閉鎖’、‘閉鎖なし’の4段階に判定した。性状は乾型と湿型に分類した。聴力検査は、オージオメーターにて3周波の気導・骨導聴力を耳垢除去前後に測定し、平均聴力レベル（四分法）を算出した。その結果、介入開始時の耳垢蓄積は、‘完全閉鎖’5耳 26.3%、‘1/2閉鎖’2耳 10.5%、‘1/3閉鎖’7耳 36.8%、‘閉鎖なし’5耳 26.3%であった。聴力は、気導聴力 32.3 ± 11.9 dB、骨導聴力 27.2 ± 14.6 dB、気骨導差 5.2 ± 4.9 dB であった。耳垢除去の前後に聴力検査が可能であった9耳の気骨導差および気導聴力は、耳垢除去前に比べ除去後の差および閾値が低下した（気骨導差：前 5.8 dB > 後 2.8 dB P=0.002、気導聴力：前 35.4 dB > 後 32.8 dB P=0.043）。性状は湿型群（4名 8耳）と乾型群（6名 11耳）について、介入開始時の耳垢蓄積は、乾型群に比べ重度な耳垢蓄積の割合が高かった（P=0.001）。耳垢除去の介入開始時、‘完全閉鎖’5耳（湿型群）のうち4耳は、6～10週間で耳垢を取り除いた。介入中、‘閉鎖なし’から耳垢が蓄積した期間は、約8週であり、性状の差はなかった。以上から、耳垢除去による聴力改善が認められた。しかし、聴力改善の差は約3dBとわずかであり、加齢による感音難聴および耳垢蓄積の程度等の影響が推測された。

論文審査結果

本論文は要介護高齢者における耳垢除去の効果を聴力および耳垢の性状と蓄積との関係から明らかにした研究である。高齢者の耳垢除去は聴力への改善効果があることや蓄積期間はほぼ8週であることなどを解明したことは独創的で意義ある研究として評価された。しかし、サンプルサイズの少ないと限界として明記されており、今後は例数を増やして成果を期待したい。

以上より、本研究論文は博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。